



清華大学と「中国資本市場十年展望国際フォーラム」を共催

【写真】(左) パネルディスカッションの様子。左から、清華大学経済管理学院の楊曙光教授、招商証券投資銀行の李黎明執行役員、国泰君安証券首席エコノミストの李迅雷氏、南京証券副総裁の范慧娟女士、清華大学経済管理学院の何平副教授。(右) フォーラム終了後、メディアの取材に答える李迅雷氏他

2010年4月27日、NRIは清華大学中国金融研究センターと共同で、両者の共同研究の成果をまとめた発表会「中国資本市場十年展望国際フォーラム」を開催しました。当日は、中国の証券業界の関係者やマスコミなど約130名が集まりました。

講演では、まず野村資本市場研究所の北京首席代表の神宮健氏が、「資本自由化・対外開放の資本市場の発展に与える影響」と題して、日本資本市場の発展の経緯と中国への示唆について講演しました。現在、中国では不動産バブルの懸念が高まっており、1980年代後半以降の日本のバブルの経験について関心が高く、会場から相次いで質問が寄せられました。

次に、共同研究の主研究者を務める清華大学経済管理学院の廖理副院長が、「中国資本市場十年展望」の研究成果を発表しました。同氏は日欧米・中国の株式・債券市場、証券会社についてファクトデータを重視した比較分析を行い、今後10年間の中国の資本市場発展ロードマップを披露しました。



【写真】(左) 会場からの質問に答える神宮健氏。(右) 研究成果を発表する廖理副院長

フォーラムの後半では、中国の大手証券会社の経営層、エコノミスト、投資銀行部門担当役員を招いて、「中国資本市場の現状と発展動向」と題したパネルディスカッションが行われました。ここでは、中国の証券業界の「規制緩和・市場開放」と「適度な規制・当局の指導」をテーマに、活発な論戦が展開されました。

最後に、アジアシステム事業本部長の東山茂樹執行役員が共催者の代表として挨拶に立ち、「廖教授の研究成果をはじめ、神宮氏、パネリストの多様な知見を得ることができました」と述べ、関係者へのお礼の言葉で締めくくりました。



【写真】閉会挨拶をする東山執行役員

今回のフォーラムには中国の大手マスコミの記者数名が取材に駆けつけました。中でも、中国の4大証券メディアの一つである『証券日報』では、フォーラムの内容とともに、中国におけるNRIの事業活動について紹介されました。

今回のフォーラムの企画・運営に携わったアジア金融事業部は、中国資本市場の発展やその動向を調査したり、当局・証券会社幹部へのアクセスルートを開拓するなどの取り組みを行っています。今回のフォーラムの成功により、共同研究の成果物とアクセスルートを生かした事業開発に加速がかけられそうです。